

看護学生の陰部洗浄演習後と基礎看護学実習後における発見の特徴

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): nursing students   perineal care   skill training   basic clinical practice   discoveries   characteristic 作成者: 鶴田, 晴美, 長谷川, 真美, Tsuruta, Haremi, Hasegawa, Naomi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.50818/00000055">https://doi.org/10.50818/00000055</a>

## 研究報告

# 看護専門学校生における、情意ベクトルによる公衆衛生授業の 情意面の評価の試み

Evaluation of public health education in nursing college  
using emotional vector to investigate teaching and learning

神山 吉輝

Yoshiki Kamiyama,

## 要 旨

看護専門学校において、公衆衛生学授業の授業評価を行った。情意ベクトルを用いた授業の情動面の評価と自由記述の質的分析を行った。対象者43名中40名から回答を得た。授業の情動面の評価では、無反応とその他を除いた12のカテゴリー中6つのカテゴリーで難しく、面白くないという結果が出た。特に、法律が最も難しく、面白くない、という結果であった。自由記述の質的分析では、1つのカテゴリーと6つのサブカテゴリーが得られた。学習困難感が、授業改善への具体的要望につながっていた。また、わかりやすい、と思うことが興味を持つことにつながり、学習に対する肯定感につながっていた。授業改善への要望をかなえることで、学生の理解を向上させ得ることが示唆された。

キーワード：看護学生 授業評価 公衆衛生 情意ベクトル 質的研究

## I. 緒 言

看護師の養成課程においては、「健康支援と社会保障制度」が専門基礎分野として必修の教育内容とされている<sup>1)</sup>。「健康支援と社会保障制度」を構成する学問の一つとして公衆衛生学が挙げられる。そのため、学校により実際の科目名は様々であるものの、看護学生は公衆衛生学を学ばなければならない。しかし、他の科目と比較して医療現場との直接の関連が薄いため、学生は学ぶ意欲を感じにくいのではないだろうか。また、その内容は、自然科学・社会科学を包括して多岐にわたっている。したがって、どの学生にとっても、それぞれに理解が難しい個所が存在するのではないだろうか。そこで、看護学生により良い公衆衛生学の授業を提供するためには、学生にとって、授業の何が難しかったか、何が面白かったか、などの授業の情意面の評価を行うことが有用であると考えられる。

糸山<sup>2)</sup>は、連想法を用いた授業評価法を研究・開発してきた。その一環として、「情意ベクトルによる授業評価」という授業の情意面の評価法を

提唱している。この方法は、授業の終了した直後に、この授業において「難しかったこと」「やさしかったこと」「面白かったこと」「面白くなかったこと」等の言葉を刺激語として、学生にそれから連想される語を書き出させうえて、それらの語をカテゴリーに分け、「情意ベクトル」を創りあげて行くものである<sup>3,4)</sup>。このとき、例えば、「難しいーやさしい」と「面白いー面白くない」は対になった刺激語であり、情意ベクトルの軸を構成する<sup>3,4)</sup>。

「情意ベクトルによる授業評価」により、これまでに大学の教育学部における生活科の授業<sup>4)</sup>、高校の家庭科の授業<sup>5)</sup>や、大学の社会学の授業<sup>6)</sup>、大学における看護学実習<sup>7)</sup>の評価が行われてきた。さらには、対象の枠が広げられて、地域の診断<sup>8,9)</sup>やテレビ番組の質の評価<sup>10,11)</sup>にも応用されている。

今回、看護専門学校生を対象とした公衆衛生授業において、「情意ベクトルによる授業評価」を行った。併せて、自由記述の質的分析を行った。それらの結果を公表することで、全国の看護学校において、より良い公衆衛生学の授業を提供する

ことの一助としたい。

## II. 研究方法

### 1. 研究対象

2013年度にA看護専門学校(3年課程)の2学年を対象とした科目「生活と健康」の受講者43名を対象とした。「生活と健康」の講義内容は公衆衛生学である。「わかりやすい公衆衛生学第3版」(ヌーヴェルヒロカワ)と「国民衛生の動向2012/2013」(厚生労働統計協会)をテキストに用いた1回90分全14回の講義であった。また、この講義は調査者自身が1人で担当していた。

### 2. 調査の実施方法

2013年10月23日に行われた「生活と健康」の最終回の授業を利用して調査を行った。授業内容の終了後に、調査票と封筒を配布した。そのうえで、回答は自由意思で行うこと、回答は無記名で行うこと、回答の有無及び回答の中身は、成績評価とは一切関係がないこと、回答をしなくても不利益になることは一切ないこと、当該科目の本試験の評価が終わるまで調査者は回答を見ないこと、回答は研究及び授業の充実のための資料の作成に使用すること、得られた結果は学校名を匿名化したうえで、公開する予定であることを説明した。また、できるだけたくさんの人に回答して欲しいこと、自由回答欄にはできるだけ多くのことを書いて欲しいことが調査者からの希望であることを伝えた。調査票は配布した封筒に入れ、封をして提出することを説明した。

### 3. 調査内容及び分析方法

糸山ら<sup>34)</sup>の開発した連想法による「情意ベクトルによる授業評価」を行った。まず、『Q1:「生活と健康」の授業で「難しかったこと」といったら、どんなことが思い浮かびますか。』『Q2:「生活と健康」の授業で「やさしかったこと」といったら、どんなことが思い浮かびますか。』という問いを書いた用紙を1分の時間を設けて、見てもらい、思いつく言葉を書いてもらった。次に、『Q3:「生活と健康」の授業で「面白かったこと」といったら、どんなことが思い浮かびますか。』『Q4:「生活と健康」の授業で「面白くなかったこと」といっ

たら、どんなことが思い浮かびますか。』という問いを書いた用紙で、同様のことを行った。

さらに、『Q5「生活と健康」(公衆衛生学)の授業やその内容について、自由に書いてください。』という文を書いた用紙に自由に回答を記載してもらった。

「情意ベクトルによる授業評価」では、糸山<sup>3)</sup>の方法に従い、得られた反応語を「学習概念(C)」「学習用素材(M)」「学習指導法(I)」「学習環境(E)」「学習者の活動(A)」「無反応(Z)」「その他(O)」の7つのカテゴリーに分類した。ここで、「学習環境(E)」には、授業者・学習者を含む教室全体が考えられている<sup>12)</sup>。さらに、それぞれのカテゴリーの中でより細かい項目への分類を、実際に記述された反応語を見たらうえて、調査者の判断により行った。細分類を、結果を見たらうえて調査者の判断で行ったのは、この分野の授業における先行研究が見当たらなかったからである。そのうえで、「難しい-やさしい」を1つの軸とし、「面白い-面白くない」をもう一つの軸として情意ベクトルを描いた。

具体的には、分類されたそれぞれの項目ごとで、「難しかったこと」で得られた語数から「やさしかったこと」で得られた語数を引く。同様に、「面白かったこと」で得られた語数から「面白くなかったこと」で得られた語数を引く。さらに、そうして得られた差し引きの反応語数を回答者総数で割って率を計算する。そのうえで、分類されたそれぞれの項目について、前者の差し引きから得られた率をx座標とし、後者の差し引きから得られた率をy座標として、座標平面にプロットし、原点から各点に対し矢印を引き、それを情意ベクトルとした。

自由回答欄の記述については、記述を切片化し、切片ごとにプロパティとディメンジョンをあげ、ラベル名を付けた<sup>13)</sup>。そのうえで、ラベルをカテゴリーにまとめ<sup>13)</sup>、さらにカテゴリー同士を関係づけるためにカテゴリー関連図を作成した<sup>14-15)</sup>。

### 4. 倫理的配慮

本研究は、東都医療大学研究倫理委員会の承認(承認番号:H2503)を得て行われた。また、調査対象のA看護専門学校の代表者に、調査者は、

説明文書を用いて研究について説明し、文書により代表者から研究参加の許可を得た。さらに、回答は自由意志で行うこと、回答は無記名で行うことなど、「2. 調査の実施方法」に記述した説明を実際の対象者に対して行い、その説明に従って調査を実施した。当該科目の本試験の評価が終わるまで、調査者は回答を見なかった。

### Ⅲ. 結 果

#### 1. 回答数

対象者 43 名中 40 名から調査票を回収した。回収率は 93.0%であった。

#### 2. 情意ベクトルによる授業評価

40 名が調査時間内に表出した反応語を各カテゴリ別に分類したものを表 1 に示した。ここでは、学習概念についての反応語の中で頻出する概念を大まかに 2 つに分け、[公衆衛生学の内容に関して頻出する知識・概念 C1]、[より基本的な学習に関して頻出する知識・概念 C2] とした。また、それ以外の学習概念については [その他の知識・概念 C3] とした。

さらに、C1 を [保健統計・疫学 C11]・[制度 C12]・[法律 C13]・[保健 C14] の 4 つに分けた。[制度 C12] には、単に「制度」と記した反応語や「制度」を含む反応語、さらに医療制度・医療保険制度・医療保険について記したものを分類した。[法律 C13] には、単に「法律」と記した反

応語や「法律」を含む反応語、法規の名称を記した反応語などを分類した。[保健 C14] には、単に「保健」と記した反応語や、地域保健・母子保健・学校保健・産業保健について記したものを分類した。ただし、法規の名称を挙げていた場合には、[法律 C13] に分類した。

C2 を [言葉 C21]・[数字・計算 C22]・[年号 C23] の 3 つに分けた。[言葉 C21] には、「言葉」「漢字」といった反応語を、[数字・計算 C22] には、「数字」「計算」といった反応語を、[年号 C23] には、「年号」「歴史」といった反応語をそれぞれのカテゴリに分類した。[その他の知識・概念 C3] には、「生活環境の保全」「感染症」「社会福祉」「社会」「健康」「公衆衛生」「表」等といった様々な反応語を分類した。

学習概念以外に分類した反応語については、細分類は行わなかった。[学習用素材 M] には、「板書」といった反応語や教科書・国民衛生の動向について記したものを分類した。[学習指導法 I] には、「先生の話」といった反応語や授業の進め方などについて記したものを分類した。[学習環境 E] には、「先生のキャラクター」といった反応語などを分類した。[学習者の活動 A] には、「覚える」といった反応語などを分類した。[無反応 Z] には、無記載の場合の他、「特になし」といった反応語などを分類した。やさしかった (E) と面白くなかった (UI) で、[無反応 Z] がそれぞれ、28 件、14 件と多かった。[その他 O] には、ここまでのカテゴリのどこにも分類できないものを分類した。

表 1. 情意連想表：生活と健康（公衆衛生学）

難しかったーやさしかった／面白かったー面白くなかった

項目	難しかった (D)	やさしかった (E)	(D)-(E)	率	面白かった (I)	面白くなかった (UI)	(I)-(UI)	率	
学習概念 (C)	保健統計・疫学 (C11)	16	5	11	0.275	7	8	-1	-0.025
	制度 (C12)	6	1	5	0.125	2	3	-1	-0.025
	法律 (C13)	13	1	12	0.300	2	8	-6	-0.150
	保健 (C14)	3	4	-1	-0.025	11	2	9	0.225
	C1 の合計	38	11	27	0.675	22	21	1	0.025
	言葉 (C21)	4	0	4	0.100	0	0	0	0.000
	数字・計算 (C22)	6	0	6	0.150	0	2	-2	-0.050
	年号 (C23)	2	0	2	0.050	0	4	-4	-0.100
	C2 の合計	12	0	12	0.300	0	6	-6	-0.150
	その他の知識・概念 (C3)	11	5	6	0.150	6	4	2	0.050
学習用素材 (M)	1	1	0	0.000	2	2	0	0.000	
学習指導法 (I)	0	0	0	0.000	12	0	12	0.300	
学習環境 (E)	0	0	0	0.000	5	0	5	0.125	
学習者の活動 (A)	3	0	3	0.075	0	2	-2	-0.050	
無反応 (Z)	3	28	-25	-0.625	5	14	-9	-0.225	
その他 (O)	4	0	4	0.100	3	5	-2	-0.050	

図1に、今回の調査で得られた情意ベクトルを示した。ここでは、[無反応 Z] と [その他 O] 以外のカテゴリーについて示した。表示された12のカテゴリー中6カテゴリーの情意ベクトルが第4象限の「難しく、面白くない」領域に位置していた。特に、[保健統計・疫学 C11] と [法律 C13] の難しさが高い値を示していた。[法律

C13] については、最も難しく、最も面白くなかったという結果であった。[言葉 C21] は x 軸上に、[学習用素材 M] は原点に、[学習指導法 I] と [学習環境 E] は y 軸上に位置していた。[保健 C14] のみが「やさしく、面白い」という結果となっていた。また、[その他の知識・概念 C3] は、「難しいが、面白い」という結果であった。

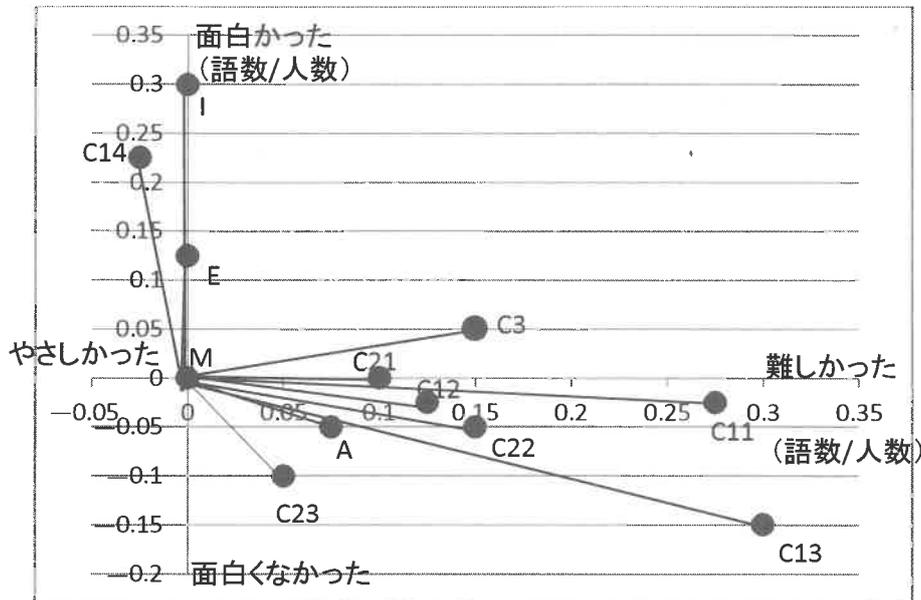


図1. 情意ベクトルによる授業の情意面の評価：生活と健康（公衆衛生学）  
 C11: 保健統計・疫学, C12: 制度, C13: 法律, C14: 保健  
 C21: 言葉, C22: 数字・計算, C23: 年号, C3: その他の知識・概念  
 M: 学習用素材, I: 学習指導法, E: 学習環境, A: 学習者の活動

### 3. 自由記述の質的分析

自由回答欄に記述があったのは39名であった。そこから、104の切片を得た。さらに、講師への謝意や励ましを述べた切片を除き、同じラベル名の切片を1つのラベルにまとめることで、83のラベルを得た。それらを分析した結果、1つのカテゴリーと6つのサブカテゴリーを得た。以下、カテゴリーを【】で、サブカテゴリーを《》で、ラベルの番号を（）で、プロパティとディメンジョンを“ ”で示す。

カテゴリー関連図を図2に示した。《学習困難感》が《授業改善への具体的な要望》につながっていた。また、《わかりやすい》と思うことが【興味を持つ】ことにつながり、《学習に対する肯定感》と《内容の総括》につながっていた。それぞれのカテゴリー、サブカテゴリーを構成するラベルを表2～

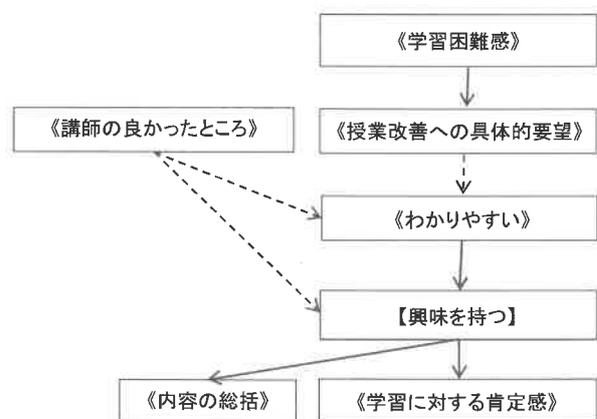


図2. 自由記述の分析結果  
 カテゴリー関連図：生活と健康（公衆衛生学）  
 【】はカテゴリー，《》はサブカテゴリー，推測できる関係は破線で示した

8に示した。

《学習困難感》は、「(1) 受講以前の自習では難しかった」「(4) 難しい」「(17) 全体的に苦手」などの31のラベルから構成された(表2)。ここでの「学習困難感」(プロパティ)が「あり」(ディメンジョン)ということが、《授業改善への具体的要望》につながる。

《授業改善への具体的要望》は、「(32) ノートをとる時間を要望」など6つのラベルから構成された(表3)。ここでも、「学習困難感」(プロパティ)が「あり」(ディメンジョン)である。また、「要望がかなえられているか」というと「かなえられていない」。

《わかりやすい》は、「(38) 講師の解説でわかる場所もあった」など、13のラベルから構成された(表4)。ここでは、「学習困難感」(プロパティ)は「部分的に解消」(ディメンジョン)または「部分的にはなし」(ディメンジョン)となっている。(47)～(50)のラベルでは、わかりやすかった項目が具体的に挙がっていた。また、(48)では、「わかりやすさ」と「おもしろさ」がともに認められた。

《興味を持つ》は、「(51) 興味深くおもしろい」など、16のラベルから構成された(表5)。(56)～(66)のラベルでは、興味を持った項目が具体的に挙がっていた。

《学習に対する肯定感》は、「(67) 重要なことが学べた」など、10のラベルから構成された(表6)。(74)～(76)は、今後の抱負についてであった。

《内容の総括》は2つのラベルから構成された(表7)。

《講師の良かったところ》は「(79) 講師がおもしろかった」など5つのラベルから構成された(表8)。

表2. 自由記述の分析結果《学習困難感》

ラベル名
(1) 受講以前の自習では難しかった
(2) 事前の知識なし
(3) 難しいんだろうな、と思っていた
(4) 難しい
(5) とても難しい
(6) すごく難しい
(7) 他の授業に比べて難しい
(8) 難しくて疲れた
(9) 全体的に難しい
(10) 部分的に難しい
(11) 分からないところもあった
(12) 人口・医療保険が難しい

(13) 人口や制度の話が、かたい
(14) 疫学が難しい
(15) 疫学・集団検診が難しい
(16) 法律・基準が難しい
(17) 全体的に苦手
(18) 苦手意識が強く大変
(19) 社会の授業みたいで苦手
(20) あまり好きではない
(21) 講義ばかりで眠くなった
(22) 居眠りへの謝罪
(23) 量が多い
(24) 量が少し多かった
(25) 覚えることが多い
(26) 覚えるのが大変そう
(27) 覚えることがわからない
(28) 数字の覚え直しが大変
(29) こんなに法律がなくてもいいのに
(30) 資料を照らし合わせるが大変
(31) 身近な内容はずなんだけど、苦手な分野とわかりやすい分野が分かれた

表3. 自由記述の分析結果《授業改善への具体的要望》

ラベル名
(32) ノートを取る時間を要望
(33) イメージしやすい説明・例えの要望
(34) 練習問題を要望
(35) 今ある法律の図式化を要望
(36) テストの内容をもっと教えてほしかった
(37) 講師の興味・研究についてもっと聴きたかった

表4. 自由記述の分析結果《わかりやすい》

ラベル名
(38) 講師の解説でわかる場所もあった
(39) 説明はわかりやすかった
(40) 板書によって、わかりやすかった
(41) 板書が復習の助けになった
(42) 教科書にそったわかりやすい教え方が良かった
(43) 教科書と国民衛生の動向の照らし合わせで知識が深まった
(44) プリントでわかりやすかった
(45) プリントなどの資料がありがたかった
(46) 重要なポイントをしぼったことがわかりやすかった
(47) 人口動態統計の説明はわかりやすかった
(48) 年齢調整死亡率の説明はわかりやすく、おもしろかった
(49) スクリーニングの説明はわかりやすかった
(50) 授業の途中で問く国試問題は理解できた

表 5. 自由記述の分析結果【興味を持つ】

ラベル名
(51) 興味深くおもしろい
(52) 興味がわくところがあった
(53) 講師も内容もおもしろい
(54) おもしろいところも難しいところもあった
(55) 身近に感じられることを学べて良かった
(56) 大変な調査が行われていることに感心
(57) 統計に興味あり
(58) 日本の人口について、勉強になった
(59) 有訴者の統計がおもしろい
(60) 疫学調査に感心
(61) 法律や基準の社会背景との関連はおもしろい
(62) 母子保健法などには納得
(63) 母子保健法・母体保護法に興味あり
(64) 母子保健・学校保健に興味あり
(65) 疾患・伝染病の話がおもしろい
(66) 豆知識・つけたしに感心

表 6. 自由記述の分析結果《学習に対する肯定感》

ラベル名
(67) 重要なことが学べた
(68) 実践的で役に立つ
(69) とっても大切
(70) 知る必要性を感じたところがあった
(71) 国家試験でも重要
(72) 事前の知識があったため、復習になった(医療保険)
(73) 事前の知識があったため、復習になった(労働基準法)
(74) 学んだことを生かしていきたい
(75) 今後もしっかり勉強していきたい
(76) 試験への意欲

表 7. 自由記述の分析結果《内容の総括》

ラベル名
(77) 公衆衛生学は広範囲な学問
(78) 様々な領域から成り立っている

表 8. 自由記述の分析結果《講師の良かったところ》

ラベル名
(79) 講師がおもしろかった
(80) 講師のキャラクターがおもしろかった
(81) 講師の声が聞こえやすかった
(82) 講師の余談を聴くことが好き
(83) 講師のちょっとした言葉がおもしろかった

## IV. 考 察

### 1. 情意ベクトルによる授業評価について

今回の調査から得られた情意ベクトルでは、[無反応 Z] と [その他 O] を除いた 12 の項目中、

半数の 6 つの項目で、「難しく、面白くない」という結果であった(図 1)。公衆衛生学は看護学生にとって、難しく、面白くないものであることが示唆される。中でも、[法律 C13] が最も難しく、かつ、最も面白くない、という結果であった。今後、学生に法規について講義する際には、学生がそのように感じているかもしれないことを意識する必要がある。保健統計や疫学については、わかりやすい授業を工夫したつもりであったが、それでも「難しく、面白くない」という評価であった。今後は、さらなる工夫が必要とされよう。

実証することは困難であるが、常識的に考えて、「難しい」と感じられることは、「面白くない」と感じられることが多いのではないだろうか。しかし、授業についての先行研究では、「難しく、面白くない」という項目は現れない<sup>6-7)</sup>か、1項目のみ<sup>4-5)</sup>であった。一方、本研究では、「難しく、面白くない」が多く現れた。これは、公衆衛生学という素材によるものなのか、今回の講義に固有の特徴なのか、はわからない。先行研究からは、「難しい」ことを「面白く」教えていることが示唆される。今回の授業でもそれが可能であったのかもしれない。

「やさしかったこと」に無反応が多かった(表 1)。この理由の 1 つとして、「難しかったこと」と「やさしかったこと」を同じ 1 枚の紙のうえで、かつ、1 分という短時間で答えるため、「やさしかったこと」まで書かないうちに記入時間が終わってしまったことが考えられる。しかし、一方で、今回の講義の中で「やさしかったこと」が思い浮かばなかった学生が実際に多かったことも考えられる。

[学習指導法 I] と [学習環境 E] は、y 軸上で「面白かった」という評価であった(図 1)。これは、講師自身や講師の説明等が学生に肯定的に評価されたためだと考えられる。しかし、それが講義内容への理解や興味にはつながらなかったようである。ただし、これは、学生及び講義内容について、全体としてまとめた見解であることに注意する必要がある。

本研究では、カテゴリーの細分類を、得られたデータを参照したうえで調査者が行なった。このデータ処理は、調査結果の客観性を確保する、という観点からは問題がある。しかし、この分野の授業における先行研究が見当たらなかったため、参考とすべき分類がなかった。また、仮に、調査

実施前に調査者がカテゴリーを作っておいたとしても、それを用いて反応語を実際に適切に分類できるかどうかの判断はできなかった。さらにデータを分析した後から振り返ってみると、あらかじめカテゴリーを設定していたとしたら、適切な分析はできなかったのではないかと調査者には思われた。したがって、今回は、このような方法でしか、意味のある結果を出せなかったと調査者は判断する。また、得られたデータを参照したうえで、その分類を行うのは、KJ法やグラウンデッド・セオリー等の質的研究では認められていることであり、今回は、部分的に質的研究方法を援用した、とも考えられる。さらに、質的研究の立場からすれば、得られたデータに基づいてカテゴリーを作るのではなく、あらかじめカテゴリーを用意しておくことこそが、データに基づかない分析である、ということになるのではないだろうか。あらかじめ用意されたカテゴリーを使用することは、新たな概念の生成を妨げている、ということになるのではないだろうか。また、あらかじめ設定されたカテゴリーであっても、データを参照したうえで作られたカテゴリーであっても、反応語をどのカテゴリーに分類するのかについては、分類する者の判断によるのであり、その観点からも、客観性の確保ということに関して今回の情意ベクトルの作成には限界がある。しかしながら、少なくとも今回の結果やその考察から判断する限りでは、このような方法から得られた結果であっても、授業評価や今後の授業の改善には役立つと考えられる。

糸山らは、差し引きの反応語数を回答者総数で割ったものを割合であるとして<sup>4)</sup>、百分率で示している<sup>3-11)</sup>。しかし、それは割合ではなく、率である。したがって、本研究では、差し引きの反応語数を回答者総数で割ったものは、率であることを明確にするために、そのままの商の値を示した(表1、図1)。

## 2. 質的分析の考察

《学習困難感》が《授業改善への具体的要望》につながっていた。また、《わかりやすい》と思うことが《興味を持つ》ことにつながり、《学習に対する肯定感》と《内容の総括》につながっていた(図2)。

《授業改善への具体的要望》では、要望がかな

えられていない。一方、《わかりやすい》では、わかりやすく講義して欲しい、わかりやすく板書して欲しい、といった潜在的な要望が、かなえられているために、《わかりやすい》、という状況になっている、と考えられる。ここから、《授業改善への具体的要望》がかなえられれば、学習困難感が緩和されることが示唆される(図2破線)。また、《講師の良かったところ》での、講師の声が聞こえやすい、といった評価が、《わかりやすい》につながっているのかもしれない(図2破線)。《講師の良かったところ》での、講師に対してのおもしろかったという評価は、授業内容についての興味へとつながることも、講義内容や学生によってはあるのではないだろうか(図2破線)。また、「(31) 身近な内容なはずなんだけど、苦手な分野とわかりやすい分野が分かれた」や「(54) おもしろいところも難しいところもあった」といったラベルは、学習困難感があったとしても、わかりやすいところ、興味深いところ、をその学生が見いだしていることを示している。他の学生にも、同様のことが期待できるのではないだろうか。

情意ベクトルの学習概念では、「面白かった」となったのは、[保健C14]と[その他の知識・概念C3]のみであった。しかし、自由記述のラベルでは、保健統計・疫学や法律についても、おもしろい、興味深いことが挙げられている(表5.(56)～(63))。また、情意ベクトルの学習概念で「やさしかった」のは[保健C14]のみであった。しかし、「やさしい」と、「わかりやすい」とのの違いに注意する必要があるものの、自由記述のラベルでは、それ以外の事項でも、わかりやすかったことが挙げられている(表4.(47)～(50))。情意ベクトルは学生の全体像を把握するには役立つ。しかし、より詳細な意見や感想を把握するためには、自由記述の質的分析の方が役に立つのではないだろうか。

自由記述の回答の中に、連想法の実施中には思い浮かばず書けなかったために、自由記述の方に以下のことを書く、といった趣旨の記述があった。今回の連想法の記述時間は短すぎたのかもしれない。情意ベクトルによる授業評価は、「1回の授業後でもいいし、一連の何回かの授業後でも良い」<sup>3)</sup>とされている。しかし、90分14回の授業後では、これまでの授業の全体を思い返すことができな

かったのかもしれない。今後、同様の評価を行うのであれば、例えば、中間評価を行う、といったことを工夫する必要があるのかもしれない。

自由記述の回答中には、「難しかった」「おもしろかった」といった語が多く見られた。これは、直前に行った連想法の質問文の影響だと考えられる。以前の調査でも、直前に見た質問文の影響が自由記述の回答に現れたことが示唆されていた<sup>16)</sup>。自由記述のみを行うことも検討する必要がある。

## V. 結 語

公衆衛生学は看護学生にとって、難しく、面白くないものであることが示唆された。今回の対象学生にとっては法律について学ぶことが最も難しく、かつ、最も面白くない、という結果であった。学習困難感が、授業改善への具体的要望につながっていた。また、わかりやすい、と思うことが興味を持つことにつながり、学習に対する肯定感につながっていた。学生の授業改善への要望をかなえることで、学生の理解を向上させ得ることが示唆された。

## 謝 辞

調査に協力いただいた A 看護専門学校の教職員の皆さま並びに学生に感謝いたします。

## 文 献

- 1) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則. 別表三.
- 2) 糸山景大. 第4章 連想法による授業評価とその応用 4-1 まえがき 4-2 二つの授業評価法. 授業の科学. 東京書籍; 62-63. 2011
- 3) 糸山景大. 第4章 連想法による授業評価とその応用 4-4 情意ベクトルによる、授業の情意面の評価. 授業の科学. 東京書籍; 71-79. 2011
- 4) 糸山景大, 上蘭恒太郎. 連想法を用いた情意ベクトルによる授業評価. 長崎大学教育学部紀要—教育科学—. 67; 1-11. 2004
- 5) 糸山景大, 平林佳子, 後藤ヨシ子. 連想法を用いた情意的側面からの授業評価—高校家庭科の授業の評価—. 長崎大学教育学部紀要 教科教育学. 47; 97-107. 2007
- 6) 高橋眞司, 糸山景大, 新田照夫. 第7章「社

会学」講義—連想調査法を用いた授業評価. 長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会. 長崎大学生涯学習叢書 7 大学の社会貢献. 長崎大学; 197-237. 2010

- 7) 辻慶子, 濱野香苗, 野村亜由美, 井上品代. 連想法調査を用いた実習評価の試み—情意ベクトルによる基礎看護学実習Ⅱの評価—. 保健学研究. 20 (1); 29-37. 2007
- 8) 辻美也子, 藤木卓, 上蘭恒太郎, 糸山景大. 連想による都市イメージの表現. 電子情報通信学会技術研究報告 (教育工学); ET96-128. 1997
- 9) 糸山景大. 壱岐:町づくりのための連想調査. 長崎大学生涯学習教育研究センター運営委員会. 長崎大学生涯学習叢書 2 地域・くらし・大学教育. 長崎大学; 247-259. 2003
- 10) 糸山景大. 連想法を用いたテレビ番組の評価. 長崎大学教育学部紀要—自然科学—. 74; 49-58. 2006
- 11) 糸山景大, 中山竜馬. 連想法を用いたテレビ番組の質の評価. 長崎大学教育学部紀要—自然科学—. 77; 21-34. 2009
- 12) 糸山景大. 第2章 授業を科学する 2-9 学習環境 (E) について. 授業の科学. 東京書籍; 43. 2011
- 13) 戈木クレイグヒル滋子. SESSION1 4 グラウンデッド セオリー アプローチによるデータ分析の流れ. 戈木クレイグヒル滋子 編. 質的研究方法ゼミナール 増補版 グラウンデッド セオリー アプローチを学ぶ. 医学書院; 8-11. 2008
- 14) 三戸由恵. SESSION 8 カテゴリー同士の関係をとらえる. 戈木クレイグヒル滋子 編. 質的研究方法ゼミナール 増補版 グラウンデッド セオリー アプローチを学ぶ. 医学書院; 149-163. 2008
- 15) 戈木クレイグヒル滋子, 鈴木希世子. SESSION 9 4 カテゴリー同士の関係をとらえる. 戈木クレイグヒル滋子 編. 質的研究方法ゼミナール 増補版 グラウンデッド セオリー アプローチを学ぶ. 医学書院; 176-180. 2008
- 16) 神山吉輝. 看護学生は統計学を学ぶことをどのように考えているのか. 東都医療大学紀要. 3 (1); 21-30. 2013

## Evaluation of public health education in nursing college using emotional vector to investigate teaching and learning

Yoshiki Kamiyama

### Abstract

I conducted an evaluation of the teaching and learning of public health in nursing college. Two different methods were used. The first method used emotional vector developed by Itoyama. The second used the grounded theory approach. 40 students out of 43 responded. In the first method, the results indicated difficulty and disinterest of 6 out of 12 categories. For example, law was placed to be the least interesting and most difficult to learn. In the grounded theory approach, there was one category and 6 sub-categories. "Difficulty to learn" is related to a "student's specific desire for lecture improvement". "Understandable" is related to "feeling interested". "Feeling interested" is related to "positive feelings about learning". Feedback suggested that a lecturer's actions in response to student input can improve students' understanding.

Keywords : nursing students, evaluation of teaching and learning, public health, emotional vector, qualitative research